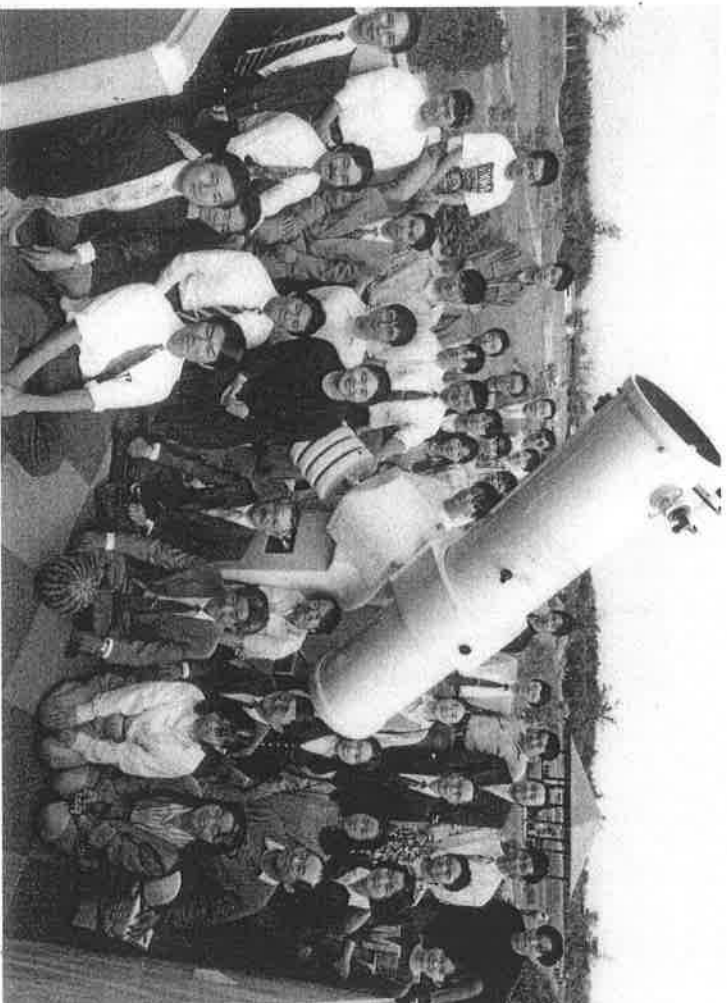


熊本県民天文台



概要

設立年月 昭和57年5月

天文台台長 艶島敬昭（つやしま たかあき）

会員数 80人

住所 下益城郡城南町大字塚原2016

主な活動地 城南町

（地域文化活動部門）

熊本県民天文台は、熊本県内のアマチュア天文愛好家の団体であった熊本天文研究会が広く県民から募金を募り、昭和五十七年、城南町に一般県民に公開する天文台を建設したことにより発足した。

以来、現在までの二十間にわたり、会員のボランティア活動による天文台の公開を続け、愛好者だけでなく一般の県民にも広く門戸を開いて、気軽に天文に親しむ機会を提供している。さらに、天文講演会の開催等、多くの県民への天文知識の普及活動、小学生等を対象とした星空観察の体験学習等の天文教育や環境教育活動を続け、天文に興味を抱く人材を数多く育成している。

また、会員自らによる天体観測や研究にも熱心に取り組み、これまでに二つの小惑星を発見、平成十二年に「KUMAMO TON」(熊本)、平成十四年に「JONAN」(城南)と命名した。天文台開設二十周年にあたる平成十四年は、全国に先駆け、城南町において、「光害」を押さえるための「上方光束ゼロ」型防犯灯の導入に尽力し、星空の見えるまちづくり運動に貢献して、県内外から注目を集めたほか、二十周年記念事業では星空寄席をはじめ、町の文化センターや地域の文化活動ボランティアと連携し、クラシックコンサートを開催して好評を博した。このように、天文を通じた特色ある様々な活動を展開しており、今後ますますの活躍が期待されている。

これまでの活動歴

昭和四十三年	七月	熊本天文研究会を結成し一般市民への公開天体観望会を始める
(一九六八年)		
昭和五十七年	五月	県民からの募金により天文台が完成、会の名称を「熊本県民天文台」に改称 晴天時には毎晩一般公開開始
(一九八二年)		
昭和六十一年	四月	ハレ―彗星接近に合わせ大観望会を開催、大勢の市民に彗星観望の機会を提供し喜ばれる
(一九八六年)		
昭和六十四年	八月	H1ロケット一号機打ち上げが行われた際に、観測が難しいとされるミラーボール型測地衛星「あじさい」を日本で最初に観測
(一九八八年)		
昭和六十四年	八月	清和村との共催により九州スターフェスタを開催、以降毎年恒例の行事になり、清和高原天文台開設の原動力となった。
平成四年	八月	天文台開設十周年を記念して、チロ大望遠鏡(移動式)が福島県から来熊、塚原古墳公園で大観望会を開催
平成五年	三月	塚原古墳公園内へ天文台移転新築、大型望遠鏡を導入し、パソコンを活用した超高感度撮影技術に取り組む
(一九九三年)		
平成十二年	三月	会員が新発見した小惑星九九三番に「KUMA MOTON」と命名
(二〇〇〇年)		
平成十四年	四月	会員が新発見した小惑星二二五四番に「JONAN」と命名
(二〇〇二年)		
平成十五年	二月	城南町で、上方光束ゼロの防犯灯導入に貢献 二十周年記念事業として、星空寄席、こどもフェスティバル、天文講演会、五嶋みどりコンサート、KAGAYA星のイラスト展など多彩な事業を展開
(二〇〇三年)		
平成十五年	二月	NPO法人設立認証